

永遠なれ 創価の大城

御書を開けば、御本仏の
大生命の赫々たる陽光を浴びることが出来る。
どんな不幸も、どんな宿命も勝ち越えていける勇氣が、智慧が、希望が限りなく湧いてくるのだ。

人類の宿命転換

戸田先生は常々、「真の永遠の生命が分かれば、人類の境涯を高めることができる」と鋭く語られていた。

永遠の生命観に立って「生老病死」の苦悩を打開し、「立正安国」の平和世界を築きゆく人類の

宿命転換の鍵が、御書には明かされている。

大聖人は「実に己心と仏心と一心なりと悟れば臨終を礙むる可き悪業も有らず生死に留まる可き妄念も有らず」（同五六九頁）とも仰せである。

要するに、自分の心と仏の心が一体であると悟り切れば、臨終を妨げる悪業にも負けないのだ。

苦悩の人びとを救わずにおくものかという仏と同じ誓いに立ち、「人間革命」即ち「広宣流布」の大願に生き抜いていく。この我が一念の変革から、厳しき現実も一つ一つ変えていけるのだ。

民衆救済の誓い

広宣流布の拡大とは、



教学研修会に集ったインドの友。「地涌」の誓いと感動の連鎖は、仏教発祥の天地にも（ニューデリーで）

「地涌の菩薩」としての使命を自覚する人材の拡大にほかならない。

全ての菩薩が立てる誓いの第一は、全人類を幸福にしていくとの「衆生無辺誓願度」である。今、自他共の幸福のため、信心の喜びを覚え、使命

を自覚して、誓いに生きる最極の充実感を知る。

SGIの教学部リーダーがインドの教学研修会を担当した際に、とても感動した光景があった。

それは「人類の幸福に尽くしたい」との思いで信心をされている方は？」と質問した時、会場を埋めた四千人の受講者が勢いよく挙手したことだった。一人ひとりが「私こそ地涌の菩薩である」との大確信に漲っていたというのである。

師弟して未来へ

仏法を学ぶ中で、自分が地涌の闘士だと確信し、命の底から我が使命に向き合う。この自覚こそ「実践の教学」だ。

苦難に挑む師子王の心を奮い起して「地涌の誓願に生きる」と決めた時、人間は最も偉大に、その生を燃焼させることができる。この歓喜の中の大歓喜の伝播こそ、世界広布の実相であろう。

法華経の肝心・南無妙法蓮華経の御本尊を根本として、全民衆を幸福に、この地涌の誓願を現代に蘇らせたのは、まぎれもなく我ら学会だ。

「地涌の義」（同一三六〇頁）を厳然と証明しながら、創価の師弟は進む。民衆の凱歌の未来へ！

さあ、我らの思想を、勇気の行動を、人類が待っている。永遠不滅の妙法を学び実践する感激に燃え、希望の大哲学を、一人また一人と伝え弘めていくのではないか！

若人を先頭に、求道の息吹で、「世界広布新時代」青年拡大の年へ、威風も堂々と！

（随時、掲載いたします）